

本橋成一 写真展 『サーカスの時間』

2012/05/03（木・祭） - 05/20（日） 5/7・5/14 はお休み

11：30～18：30

朝日新聞マリオン 5月2日掲載

見知らぬ町にテントを張り、命をかけて身体も張り、市井の人々のところとまなこに輝きを与え続けたサーカス団。

写真家本橋成一が包み込むように写真機に収めた、サーカスの郷愁溢るゝ心優しき白黒写真展。



写真集「サーカスの時間」より



サーカスの芸人さん、裏方さんたちの芸、表情、動き、言葉、生活そのもの、動物たちの動作、建てられては解体されるテント、それらすべてが、ぼくをもう一つの大きな時間の流れへと巻き込み、「サーカスの時間」となった。 本橋成一



リンク [<ポレポレタイムス社>](#)

本橋成一

1940 年 東京都中野区東中野出身

1945 年 東京大空襲に遭う

1963 年 自由学園卒業。

1965 年 筑豊文庫の上野英信を訪ね、その後 九州・北海道の炭鉱の人々を撮り始める。

1965 年 報道写真家岡村昭彦と出会い 1 年半アシスタントをする。岡村の代わりに連絡係としてベトナムに赴く。

1968 年 作品「炭鉱〈ヤマ〉」で、第 5 回太陽賞受賞。

1972 年 色川大吉『ユーラシア大陸思索行』でデンマーク、オーストリア、ギリシャ、トルコ、インドなどを撮影。

1972 年 小沢昭一『諸國藝能旅艱』（写真/本橋成一）6 回連載。

1976 年 小沢昭一編集『藝能東西』の仕事で初めてサーカスを撮る。

1980 年 上野駅を撮り始める。個展『サーカスの時間』（新宿・ニコンサロン）写真集『サーカスの時間』（筑摩書房）刊行。

1983 年 写真集『上野駅の幕間』（現代書館）刊行。

1985 年 画家丸木位里・丸木俊のスライド集『ひろしまを見たひと』（監督・土本典昭）の作品を撮影。

1987 年 独立して「ポレポレ座」を立ち上げる。

1988 年 写真集『魚河岸 ひとの町』（晶文社）刊行。

1990 年 『砂の水平線』共著・立松和平（平凡社）刊行。正式に事務所「ポレポレタイムス社」を設立。

1991 年 チェルノブイリ原発とその被災地ベラルーシに通い始め、汚染地域で暮らす人々を撮影。

1993 年 写真絵本『チェルノブイリからの風』（影書房）刊行。写真集『サーカスの詩』（影書房）刊行。

1995 年 写真集『無限抱擁』で日本写真協会年度賞、写真の会賞を受賞。

1998 年 写真集『ナージャの村』で第 17 回土門拳賞受賞。ドキュメンタリー映画『ナージャの村』を初監督。ベルリン国際映画祭に出品。

2002 年 二作目映画『アレクセイと泉』で 52 回ベルリン国際映画祭にてベルリナー新聞賞及び国際シネクラブ賞受賞。第 12 回サンクトペテルブルク映画祭でグランプリなど受賞多数。

2002 年 雑誌の連載で開戦前のイラク国内を旅する。翌年『イラクの小さな橋を渡って』（池澤夏樹との共著）を緊急刊行。

2006 年 歌と三線一本で流浪の人生を送ってきた石垣島のおばあを描いた映画『ナミイと唄えば』を公開。

2007 年 徳山ダムに沈んだ岐阜県徳山村に最後まで住み続けた村人たちの暮らしを 15 年追った映画「水になった村」を初プロデュース。

2009 年 ドキュメンタリー映画『バオバブの記憶』公開。

2010 年 プロデュース作品『祝の島』公開。

2010 年 個展『昭和藝能東西』（銀座・ニコンサロン）写真集『昭和藝能東西』（オフィスエム）刊行。

2011 年 写真集『屠場』（平凡社）刊行。